

ユネスコスクール年次報告書

報告期間: 2012年4月～2013年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前, メールアドレス, 添付資料を除き, HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させてい
ただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立 唐桑小学校
種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
住所 〒988-0533
宮城県気仙沼市唐桑町明戸208-6
E-mail : karasho@vanilla.ocn.ne.jp
Website : http://www1.ocn.ne.jp/~karasho/
児童生徒数 : 男子 72 名 女子 54 名 合計 126 名
児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付資料をつけていただいても構いません）。

活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用 ユネスコクラブの活動として実施
- その他（低学年では生活科）

○1・2年生は生活科，3年生以上は総合的な学習の時間を中心に活動を展開してきた。しかし震災後の養殖が完全に軌道に乗るまでは，各体験活動が該当する学年に重複があったり，微調整を行いながら実施した。

○1～3年：（福祉体験・農業体験が中心）

各学年とも地域の農業関係者の支援をいただき，保護者や地域との関わりを深めながら，野菜を育て，食育に関わるような内容も学習してきた。1年生においては来年度入学してくる唐桑幼稚園児を招いての交流を行い，活動の手順を教えてあげたりしながら楽しく遊んだり，一緒に給食を食べたりすることができた。2年生では，学区内に住む畠山重篤氏から直接海の豊かさや牡蠣について話を聞き，関心意欲を高めることができた。3年生では，震災後に兵庫県の小学校からの支援がきっかけで交流が続いており，自分たちの育てた枝豆やずんだもち，ふかひれ，丹波の黒豆など，唐桑と丹波の互いの町の自慢を紹介し合うパンフレットを作成して交流してきた。また学区内にある福祉センターの見学や利用者との交流を通して，介護の意味を体験を通して理解し，地域に住むお年寄りとの関わりを深めることができた。

○4年「おいしい牡蠣を育てよう」（主な体験活動：種ばさみ体験，水生生物調査）

種ガキをロープに挟み込み，翌年の「耳つり体験」につなげる。牡蠣の生態についての基礎的な知識などを調べる。震災後の体験的な活動はまだ十分ではないため，今年度は干潟の生物調査に取り組み，海の豊かさについての導入を図った。また学区内にある老人福祉施設や知的障害者施設の方々との交流を行い，同じ地域に住む住民として分け隔てなく関わりをもつことができた。

○5年「唐桑の海の秘密を探ろう」

（主な体験活動：牡蠣の耳つり，グリーンウエーブ，森は海の恋人植樹体験）

牡蠣を大きく育てる「耳つり」という養殖方法を体験し，養殖に携わる方の話を聞きながら，牡蠣が成長する条件となるプランクトンの重要性を学習する。エサとなるプランクトンが豊富な海にするためには，森が必要だということも理解した。牡蠣の養殖筏の周りで，魚の稚魚等たくさんの生き物たちを見つけ，海の豊かさを実感することができた。今年度は「森は海の恋人植樹祭」に参加し，全国の方々と一緒に植樹を行った。6年生も同様に参加している。

また公民館との学社連携事業として，福祉関係の支援もいただいて，手話講座を開催し，地域の方々とのコミュニケーションを図りながら，基本的な知識や障がい者の心情を考える良い機会となった。

○6年「唐桑の素晴らしさを伝えよう」

(主な体験活動:温湯処理, 牡蠣の水揚げ, 牡蠣まつり参加, 定置網おこし)

牡蠣を大きく, しかも質の良いものにするために行う「温湯処理」の作業を見学し, 作業の大変さを実感したり, 牡蠣そのものとその側の海草類の特性について学んだ。「牡蠣の水揚げ体験」においては, 「温湯処理」をしたものとなしものを比較し, その成長の違いを感じることができた。また地元の「牡蠣まつり」に参加し, 牡蠣を商品として取り扱い, 販売の活動体験を通して, 「販売の仕方」や「安心安全な食」についての考えを生産者の立場から学んだ。さらに「定置網おこし」の体験を通して, 自分たちの地域が恵まれた自然の中にあり, その恩恵を受けて自分たち人間が生活していることを実感した。人間の工夫や努力はもちろんだが, 人間の手では創れない「唐桑の海」の豊かさに改めて気づき, 自分たちがしなければならないことは何かを考えることができた。

また, 今年度は震災時に幼稚園の園舎が使用できなくなり, 小学校の校舎の中で共に生活してきたことから, 幼稚園児との交流を深めながら人との関わり大切さやコミュニケーションをとろうとする意欲を高めることができた。

活動の内容を補完する以下の資料があれば添付願います。

- 紙媒体の参考資料 (新聞、出版物など) □ CD-ROM ■ 写真
□ その他 ()